

NOMURA

# 2024年10月期 決算説明資料

のむら産業株式会社 証券コード 7131

皆さま、こんにちは、清川でございます。  
本日は、年末のお忙しい中にもかかわらず、  
当社の決算説明会にご参加いただき、感謝申し上げます。

これより、のむら産業株式会社2024年10月期の決算についてご説明いたします。

## 目次

- I. 事業概要
- II. 2024年10月期 決算概要
- III. 2025年10月期 業績予想
- IV. 中期経営計画概要
- V. 株主還元
  
- VI. Appendix

本日の決算説明会は、  
「事業概要」、  
「2024年10月期 決算概要」、  
「2025年10月期 業績予想」、  
「中期経営計画概要」、  
「株主還元」の順番でご説明いたします。

## I. 事業概要

それではまず、「事業概要」からご説明いたします。

のむら産業グループは  
米穀包装資材・機械をワンストップで  
企画・販売する  
**米穀包装業界のトップランナー**



人々のライフスタイルの変化に対応し  
**「包む」をキーワードに事業領域を拡大中**



主な事業内容は「米穀精米袋を中心とした包装資材」の企画デザイン・販売と、「米穀用自動計量包装機を中心とした機械製品」の企画開発・製造販売からなる「包装関連事業」と

「包む・埋める・封をする」といった、梱包における問題を解決するための商品・サービスを提供する、「物流梱包事業」により事業を展開しております。

なぜ当社が事業を拡大してこれたのでしょうか。

それは、当社の経営理念にある、「人に優しい新技術」「使う人の身になっての商品づくり」を心がけ、お取引先様のビジネスを通じて、米穀包装業界のトップランナーとして業界を牽引してきたからだと自負しております。

そして、創業当時から続く思いを胸に、人々のライフスタイルの変化に敏感に対応し、「包む」をキーワードに「事業領域の拡大」を進めております。

当社グループはBtoBを中心とした2つのセグメントで構成



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

4

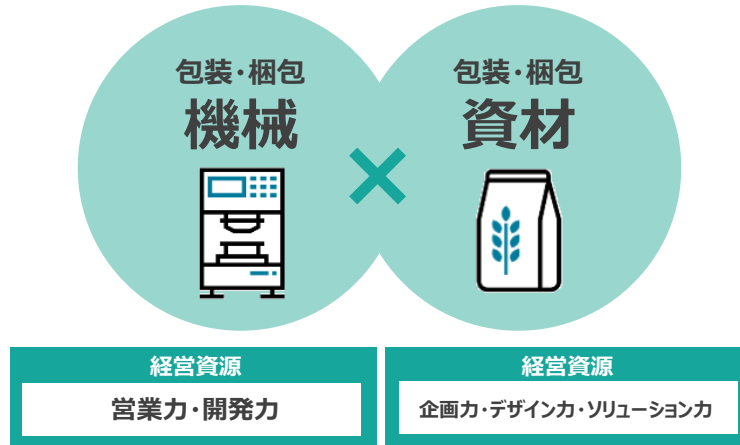
当社の事業セグメントは、大きく2つで構成されています。

ひとつは、売上高の86%を占める「包装関連事業」、  
もうひとつは、売上高の14%を占める「物流梱包事業」です。

包装関連事業は、包装資材と包装機械を両輪としてビジネスを展開し、  
物流梱包事業は、物流におけるパッケージに関連する資材と機械を商材として  
展開しております。

## 米穀包装資材・機械のパイオニア

### 米穀用包装資材と包装機械の両方を手掛けニッチ領域で事業を展開



続きまして、事業領域についてのご説明をいたします。

当社は、「米穀包装業界」において資材、機械のパイオニアでございます。

「包装資材」と「包装機械」の両方を手掛け、「ニッチ領域」で事業を展開してまいりました。

「機械販売」と、「その機械で使用する資材販売」を組み合わせることで、  
安定的で持続的な「収益計上」を実現できます。

これはコピー機とコピー用紙、プリンターとインクの関係と同じです。

この両面で事業を展開することは、顧客との「接触頻度」「関係性」を高め、  
「顧客からの要望を取り込むチャンス」を多く持つことができます。

これこそが、創成期から続く当社のビジネスモデル、「当社の強み」です。

## II. 2024年10月期 決算概要

続きまして、2024年10月期決算の概要をご説明いたします。  
こちらについては、西澤の方からご説明いたします。

## 堅調な需要により大幅増収・増益

包装関連、物流梱包の2事業ともに、前年以上の売上達成

売上高

6,612百万円

前期比：+10.7%

営業利益

505百万円

前期比：+12.8%

親会社株主に帰属する  
当期純利益

339百万円

前期比：+16.8%

セグメント別売上高

包装関連事業

5,662百万円

前期比：+11.5%

物流梱包事業

950百万円

前期比：+6.5%

業績サマリーについてご説明いたします。

2024年10月期の業績ですが、9/13に発表しておりました業績修正予想をさらに上回る着地となりました。

主力の包装関連事業においては、自然災害による備蓄意識や令和のコメ騒動などの影響もあり、一般家庭向けの包装資材が好調に推移し、包装機械も獲得した受注を確実に収益に結びつけ、包装関連事業の売上は堅調に推移いたしました。

物流梱包事業においては、エア緩衝材から紙緩衝材への入れ替えなど、サステナブル需要の増加を的確に捉え、売上は堅調に推移いたしました。



米の備蓄需要の高まりにより包装資材が好調に推移  
 期初の減益計画から一転し、営業利益は前期比+12.8%増の2桁増益に

単位：百万円	23/10期決算		24/10期決算				前期比	
	実績	利益率	実績	利益率	2024/9/13開示 上方修正後 通期計画 (期初計画)	達成率	増減額	増減率
売上高	5,972	—	6,612	—	6,502 (6,269)	101.7%	+639	+10.7%
売上総利益	1,546	25.9%	1,666	25.2%	—	—	+120	+7.8%
営業利益	448	7.5%	505	7.6%	493 (407)	102.5%	+57	+12.8%
経常利益	446	7.5%	510	7.7%	499 (394)	102.4%	+64	+14.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	290	4.9%	339	5.1%	320 (246)	105.9%	+48	+16.8%

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

8

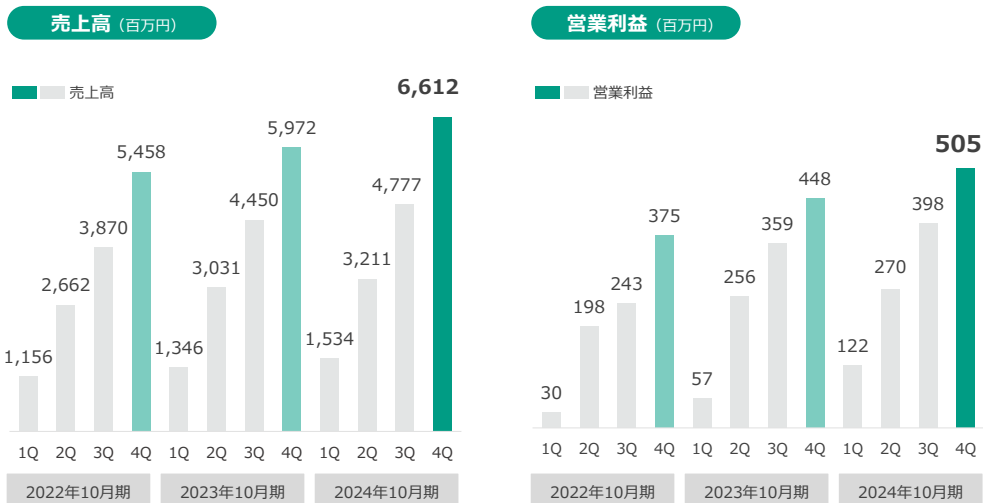
こちらは連結の決算概要になります。

売上高は66億1千2百万円と、前年同期比で10.7%の増加、  
 当初計画に対し3億4千3百万、修正計画に対しても1億1千万のプラス、

営業利益は5億5百万円と前年同期比で12.8%の増加、  
 当初計画に対し9千8百万、修正計画に対しても1千2百万のプラス、

親会社株主に帰属する当期純利益は3億3千9百万円と前年同期比で16.8%の増  
 加、当初計画に対し9千3百万、修正計画に対しても1千9百万のプラスという結果にな  
 りました。

## 全四半期において前年同期比で増収増益で推移



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

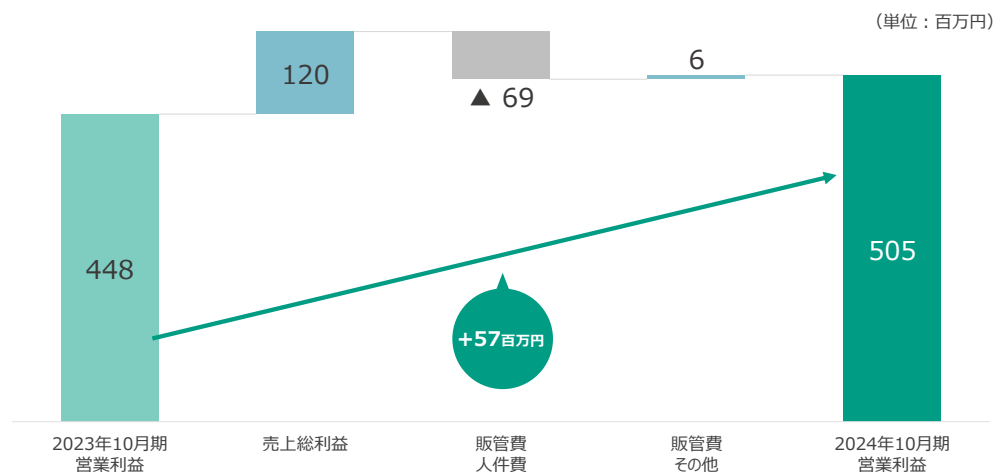
9

四半期ごとの業績の累計についてはご覧の通りです。

当社の売上は、例年新米時期に重なる第4四半期に増加する傾向があります。当期は特に令和のコメ騒動により第4四半期で包装資材が好調となりました。

各四半期累計では、全ての四半期で前年累計を上回る結果となりました。

包装資材の販売好調により売上総利益が増加  
営業利益は前年同期比で57百万円の増益



続きまして営業利益の増減要因分析になります。

当期の営業利益は5億5百万円となり、前年同期比で5千7百万円増となりました。

増収効果に加え、資源価格や原材料価格の高止まりなどの影響を最小限に抑えるため、様々なコストダウンに注力した結果、売上総利益が前年同期と比較し、1億2千万円増加いたしました。

**包装関連事業**

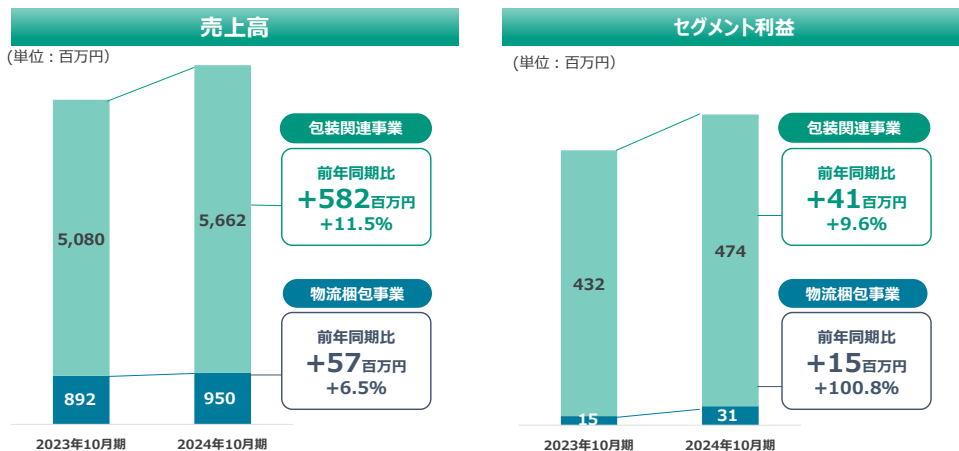
増収増益を達成

包装資材 | 令和のコメ騒動による備蓄意識の高まりにより、**一般家庭向けの販売が好調に推移**  
包装機械 | 更新需要もあり、堅調に推移。新たなニーズ獲得の営業活動にも注力

**物流梱包事業**

増収増益を達成

ネット通販市場拡大による需要増および、脱プラスチックの風潮に沿った**環境配慮型商材の拡販**  
**などを中心とした提案型営業**により新規顧客の獲得が寄与



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

11

続きまして、セグメント別の決算概要になります。

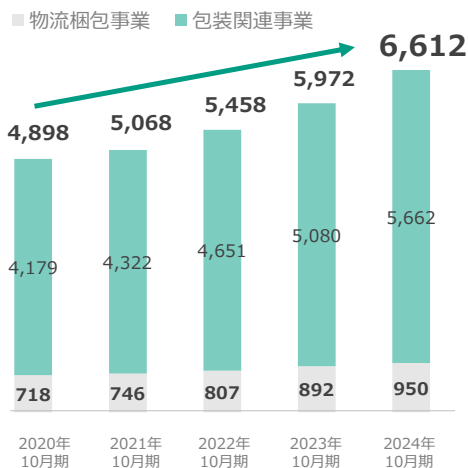
包装関連事業については、原料米の不足による需給ひっ迫に加え、自然災害の影響などにより、消費者の備蓄意識が高まったため、お盆明け以降、出荷量が増加し、新米の出荷も例年にはない量となりました。加えて、新規の4kgや2kgなどの小袋や例年にはない銘柄の注文が増加したこともあり、一般家庭向けの包装資材が好調に推移いたしました。

包装機械はコロナ禍の影響でバックストックしていた更新需要もあり、販売が堅調に推移いたしました。また、新たなニーズ獲得の営業にも注力したことで、新規顧客の開拓も進んできております。

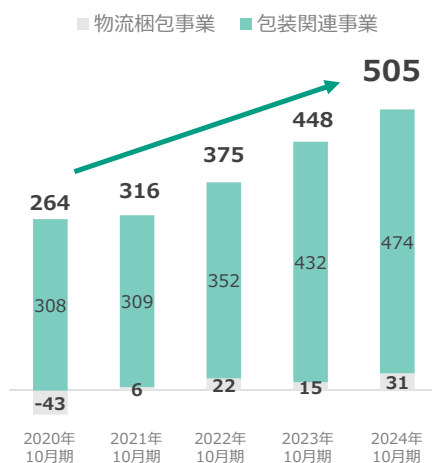
物流梱包事業については、コロナ禍からの社会経済活動の持ち直しや、ネット通販市場の拡大傾向がみられるなど、物流需要は底堅く推移しております。一方、2024年問題による人件費の高騰や、燃料価格の高騰による運賃価格の上昇等により、全体的な物流量が回復したと言い切れない状況が続いております。その中でSDGs など、脱プラスチックの風潮に沿った環境配慮型商材などを中心とした、提案型営業による新規顧客の獲得などが寄与し、業績は堅調に推移いたしました。

## 売上高・営業利益ともに過去最高を達成 着実に業績を拡大中

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

続きまして、当社の「2020年10月期以降」の各セグメントの業績動向はご覧の通りです。

「2020年10月期」には、コロナ禍において営業活動等の制限がございました。その後も資材高騰や燃料価格高騰、円安、当期においては令和のコメ騒動など、様々な社会環境の変化に直面しましたが、顧客ニーズを着実に捉え、包装関連事業、物流梱包事業、ともに着実に業績を拡大しております。

(単位：百万円)	23/10期	24/10期	増減額	主な増減要因
総資産	3,775	4,113	+338	主に現預金、売掛金の増加
負債	2,130	2,201	+71	主に未払法人税等、未払消費税等の増加
純資産	1,644	1,912	+267	主に親会社株式に帰属する当期純利益の計上

(単位：百万円)	23/10期	24/10期	増減額	主な増減要因
営業CF	450	479	+28	税金等調整前当期純利益 510 売上債権の増加 ▲314 棚卸資産の減少 188
投資CF	▲42	▲62	▲19	固定資産の取得 ▲60
財務CF	▲196	▲209	▲13	長期借入金の返済 ▲124 配当金の支払 ▲68
現金及び現金同等物の 期末残高	1,255	1,462	207	

続きまして、貸借対照表とキャッシュフローはご覧の通りとなっております。

投資キャッシュフローの減少要因は、子会社の職場環境改善のため、事務所の改修や工場内の空調設備更新など、主に有形固定資産の取得による支出となります。

以上、2024年10月期決算の概要をご説明申し上げます。

### Ⅲ. 2025年10月期 業績予想

続きまして、「2025年10月期 業績予想」についてご説明いたします。

**包装資材を中心とした好調な業績を継続すると同時に  
重点施策の着実な実行により増収・増益を目指す**

(単位：百万円)	24/10期 (実績)	利益率	25/10期 (予想)	利益率	前期比	
					増減額	増減率
売上高	6,612	—	6,700	—	+87	+1.3%
売上総利益	1,666	25.2%	1,713	25.6%	+46	+2.8%
営業利益	505	7.6%	544	8.1%	+39	+7.8%
経常利益	510	7.7%	544	8.1%	+33	+6.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	339	5.1%	352	5.3%	+12	+3.8%
1株当たり当期純利益 (EPS.単位:円)	256.54	—	266.37	—	+9.83	+3.8%

前期までの好調な業績を継続し、既存事業でのオーガニックな成長に加え、重点施策の着実な実行により増収を目指してまいります。

しかしながら、今期は大型受注の売上見込みがないことから、売上高は微増を見込んでおります。

営業利益におきましては、中期計画で掲げる「商品・サービスの開発力・提案力の強化」を目的とした人員強化を継続的におこなってまいります。コスト削減や原価高騰に対しての適切な価格転嫁をおこなっていくことで増益を計画しております。

様々な環境変化に対応しつつ、年度施策を着実に実行し、通期計画を上回るよう努めてまいります。



(単位：百万円)		24/10期	25/10期	前期比		概要
		実績	予想	増減額	増減率	
売上高	包装関連事業	5,662	5,800	+137	+2.4%	
	物流梱包事業	950	900	▲50	▲5.3%	大手通販会社でサステナブル商材への変更により一時的な減収を見込む
	合計	6,612	6,700	87	+1.3%	
営業利益	包装関連事業	474	486	+12	+2.6%	
	物流梱包事業	31	58	+27	+87.4%	25年度の途中でのれん償却終了などにより大幅増益
	合計	505	544	+39	+7.8%	

※セグメント別の営業利益は、のれん償却費及び販管費等の配賦等を調整したセグメント利益を記載しております。

セグメント別の見通しについてご説明いたします。

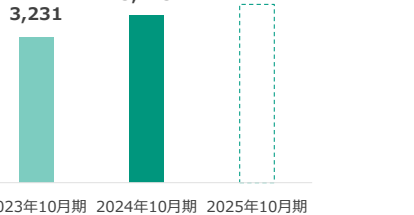
包装関連事業は、売上高、前期比1億3千7百万円増の58億円、セグメント利益、前期比1千2百万円増の4億8千6百万円の見通しです。

物流梱包事業は、売上高、前期比5千万円減の9億円、セグメント利益、前期比2千7百万円増の5千8百万円の見通しです。

## 包装関連事業

## 包装資材

売上高 (百万円)



2023年10月期 2024年10月期 2025年10月期

## 25年10月期見通し

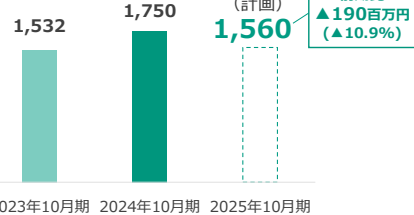
- ・ 前期の令和のコメ騒動に伴う特需の影響が上期も続く見通しなことから前期比6.7%増の見込み

## 重点施策

- ① 既存顧客へのソリューション営業の実践
- ② 新商品の開発と市場投入のサポート
- ③ 品質維持とアフターサービスの充実
- ④ 西日本市場での売上・利益の拡大を目指す

## 包装機械

売上高 (百万円)



2023年10月期 2024年10月期 2025年10月期

## 25年10月期見通し

- ・ 前期、前々期はコロナ禍期間中のバックストックや大型案件の受注があったが、今期はコロナ禍前の水準に戻るため、前期比で減収の見込み

## 重点施策

- ① アフターサービス体制の維持向上の推進
- ② 新製品販売強化  
鮮度保持パッカーを重点的に販売

2024年の包装関連事業の事業ごとの売上は、  
包装資材、39億6千万円、  
包装機械、15億6千万円を計画しております。

包装資材は、前期の令和のコメ騒動に伴う特需の影響が上期も続く見通しなことから、前期比6.7%増を見込んでおります。

展示会への出展や顧客ニーズに訴求した資材の提案など、積極的な営業活動に努め、西日本市場への拡大も引き続きおこなってまいります。

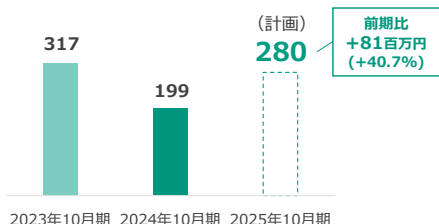
包装機械は、コロナ禍の影響で先送りになっていた更新需要が一巡したことで、今期につながる受注実績が、コロナ禍前の水準に戻ったことを考慮し、当期については前期比10.9%減を見込んでいます。

前期の自然災害やコメ騒動などの影響から備蓄意識が高まり、鮮度保持の関心が強くなってきたこともあり、当社の新製品である鮮度保持パッカーの販促に努め、計画以上の達成を目指してまいります。

## 包装関連事業

## 新市場

売上高 (百万円)



## 25年10月期見通し

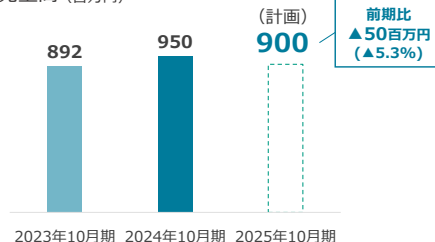
- 米穀市場以外への販売促進を展示会への出展などを活用し、新市場への導入を加速化させる計画

## 重点施策

- ①新市場の開拓推進
- ②成功要因の抽出と横展開
- ③ワンストップソリューションの強化

## 物流梱包事業

売上高 (百万円)



## 25年10月期見通し

- 大手通販会社が環境に配慮した低コストの梱包資材にシフトすることにより一時的に減収の見込み
- 25年10月期は減収になるものの、脱プラや紙資材への関心の高まりから新規契約は増加中

## 重点施策

- ①新素材を活用した紙緩衝材の販売競争力強化
- ②リサイクル商材など環境配慮型商材の拡販
- ③展示会などを活用した新規開拓の推進

包装関連事業の新市場においては、2億8千万円  
物流梱包事業は、9億円を計画しております。

新市場の展開については、今まで取り扱いのなかった分野での包装機械の受注、納品が着実に増えてきておりますので、引き続き、展示会への出展などを活用し、菓子や豆類などの新市場への導入を加速化させていきたいと考えております。

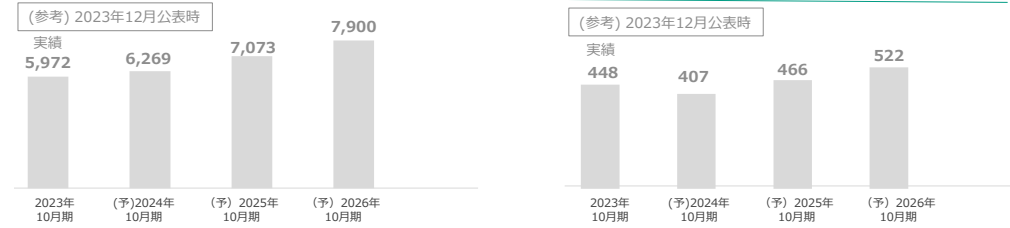
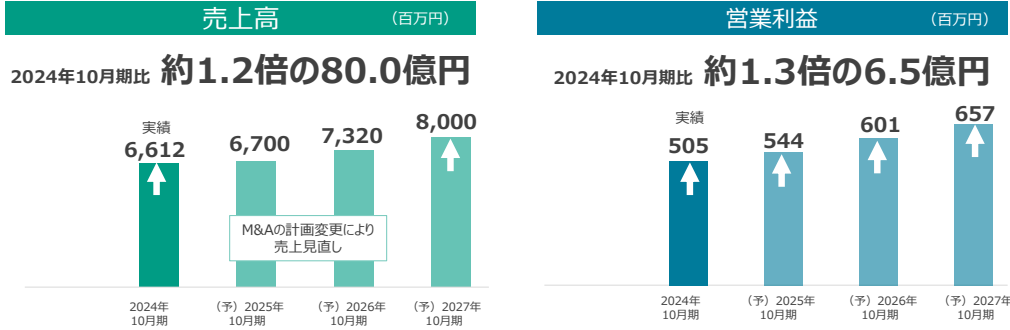
物流梱包事業については、大手通販会社が環境に配慮した低コストの梱包資材にシフトするなど、当期は一時的な減収を見込んでおりますが、脱プラや紙資材への関心の高まりもあり、新規引合、新規契約は増加中です。

来期以降の増収を目指し、サステナブル商材の販売を積極的に進めてまいります。

## IV. 中期経営計画概要

続きまして、「中期経営計画概要」をご説明いたします。

米穀包装業界を牽引するとともに、新市場への進出を加速化し、  
3年後に売上高80億円、営業利益6.5億円超を目指す



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

20

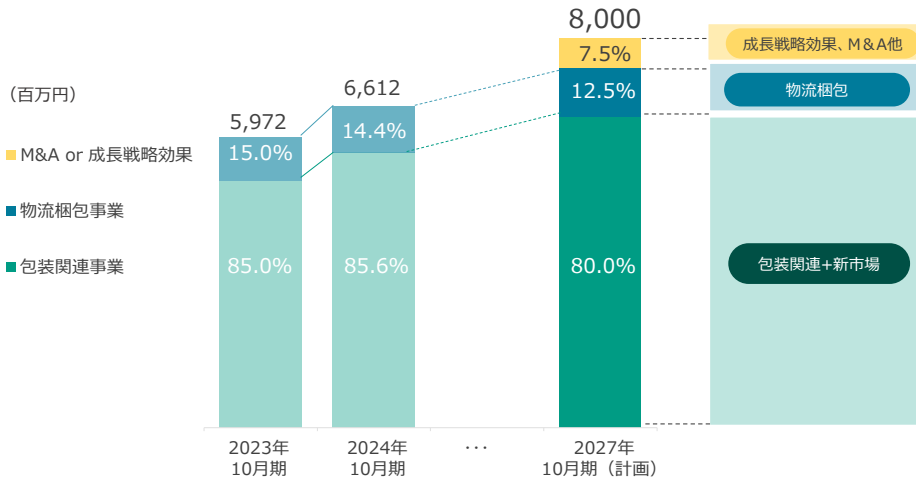
当社の中期経営計画は、每期改定するローリング方式を採用しております。

2023年12月に公表した当該中期経営計画を、外部および内部環境の変動を加味し、最新の状況に基づき、2025年10月期を初年度とする中期経営計画に更新しております。

数値計画はご覧の通りです。

米穀包装業界を牽引するとともに、新領域へ進出し、3年後には、売上高は、現在の約1.2倍の「約80億円」、営業利益は、約1.3倍の「約6億5千万円」を目指します。

### 包装関連事業、梱包物流事業の着実な成長、 強みを生かした成長戦略による基盤を構築



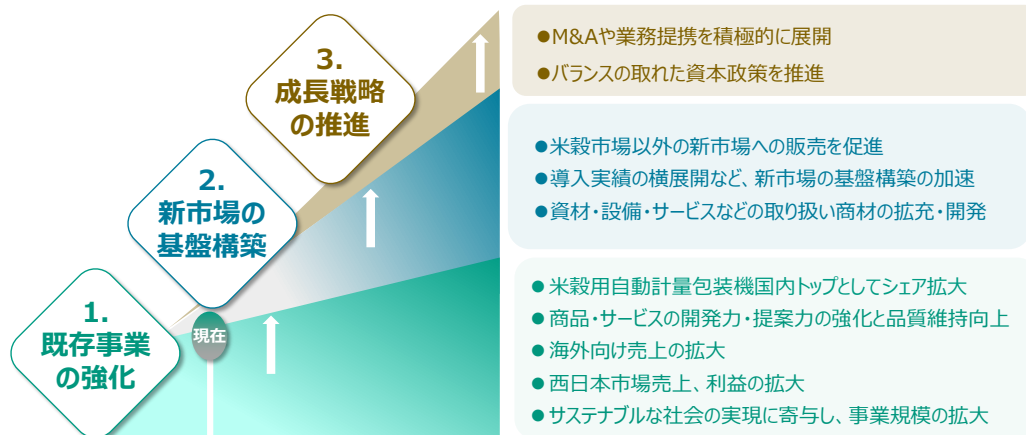
© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

21

売上高を1.2倍とするために、主力の包装関連事業と物流梱包事業を堅実に拡大するとともに、成長戦略実施とM&Aによる事業、領域の拡大などでの成長を目指します。

3年後は、現在の主力である米穀業界での包装関連の売上を伸ばしながら、売上構成としては2/3とし、1/3は米穀以外の新市場での包装関連事業、および、物流梱包事業+アルファとするイメージです。

## 3つの拡大ポイントにおける重点施策を推進し、事業を拡大



本中計では3つの拡大ポイントにおける重点施策を推進し、事業を拡大してまいります。

既存事業の強化を土台とし、当社の強みを発揮できる分野での拡大を図ります。

一つ目として、既存事業は、これまで「リーチできていなかったエリア」に拡大余地があり、シェアを拡大させ、さらなる事業規模の拡大を図ります。

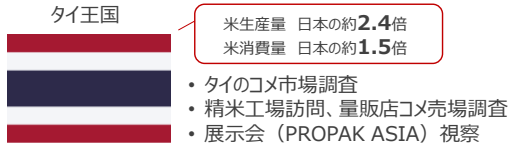
二つ目として、米穀関連以外では、「米穀市場以外の新市場」への販売を促進し、成長を目指してまいります。

三つ目として、将来的には、「M&Aや業務提携の展開」を目指してまいります。

**包装関連事業**

海外向け商品の拡大にむけて

米を主食としている東南アジア諸国への販路拡大を目的に調査活動を実施



■世界の米生産量ランキング (千t)

1位	中国	144,500
2位	インド	104,800
3位	インドネシア	35,760
4位	バングラディッシュ	34,500
5位	ベトナム	28,074
6位	タイ	18,750
7位	ミャンマー	12,600
8位	フィリピン	11,915
9位	ブラジル	8,465
10位	日本	7,816

約**2.4**倍

■世界の米消費量ランキング (千t)

1位	中国	147,500
2位	インド	98,097
3位	インドネシア	38,500
4位	バングラディッシュ	35,200
5位	ベトナム	22,100
6位	フィリピン	13,200
7位	タイ	11,700
8位	ミャンマー	10,550
9位	日本	7,966
10位	ブラジル	7,900

約**1.5**倍

農林水産省HPより引用（資料：日本のデータは平成26年度「食料需給表」より、その他の国・地域は米国農務省「PS&D」（10 November 2015、2014/15年の数値（見込値を含む））より作成） ※注：数値は精米ベース

中期経営計画での重点施策について、  
取り組んでいる内容をご紹介します。

まず、包装関連事業の重点施策「海外向け売上の拡大」につきましては、米を主食としている東南アジア諸国への販路拡大を目的に調査活動を実施しております。

まずはタイをターゲットとし、タイの精米工場の訪問や量販店でのコメ売り場の調査を実施いたしました。

また、タイで開催されている展示会（PROPAK ASIA）の視察もおこなってまいりました。

タイは、米の生産量が日本の2.4倍、消費量が1.5倍ですので、包装機械のニーズは十分にある認識のもと、営業活動をおこなった結果、当期は既存顧客へ複数台の計量包装機の納入予定がございます。

引き続き、東南アジアへの販路拡大の一步として、タイでの拡大を目指してまいります。



包装関連事業

チューブロール式計量包装機の拡販

## 「チューブロールとは」をテーマに展示会に出展

米穀以外の新市場をターゲットに当社主力商材を積極アピール



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

24

次に、「米穀市場以外の新市場への販売促進」です。

当社の主力商材であるチューブロールを、米穀市場以外の市場で認知度を高めるために、展示会に出展いたしました。

米の計量、包装の自動化など、精米工場における省人化・省スペース化に貢献しております。

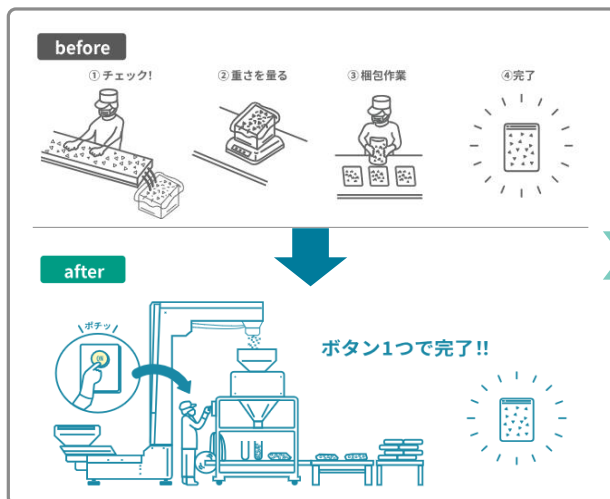
コーヒー豆や大豆などの豆類、菓子などの他の市場においても、チューブロール式計量包装機は、需要がある製品と考えており、引き続き、認知拡大に努めております。

**包装関連事業**

**米穀以外の市場に対するの販売促進**

**菓子製造ライン**

一次加工チョコレートの計量・包装の作業をボタン1つで自動化  
さらに、開封しやすい資材の提案により計量→包装→開封までの効率化に寄与



**別商品の製造ライン  
でも導入に向け  
提案中**

**豆類や医薬品包装関係に  
対しての営業も  
積極的に展開中**

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

25

新市場開拓につきましては、展示会出展だけでなく、  
営業活動にも力をいれております。

実際に、菓子製造ラインの一次加工チョコレートの、計量・包装作業に対して、チューブ  
ロール式計量包装機器、包装資材が導入されております。

現在は、同様の機械を別商品の製造ラインで、導入に向けた提案中であることに加え、  
豆類や医薬品包装関係に対しても積極的な販促活動を展開しております。

物流梱包事業

サステナブル新商材の提案促進

Before

- ✓ 段ボール箱での梱包が一般的
- ✓ プラ素材のエアキャップなどが一般的



After

- ✓ 宅配時にも破損しない堅い紙袋
- ✓ リサイクル可能な紙素材



X-Fill<sup>TM</sup> シリーズ

- 1層クラフト紙から3次元クッション材を自動で製造
- 毎分102mのスピードで紙緩衝材を生産可能



大手通販会社での導入が順調に進行中

次に、

「サステナブルな社会の実現に寄与した、事業規模の拡大」についてです。

物流梱包事業では、環境に配慮した新商材の提案を積極的に促進しております。

当社顧客の大手通販会社においても、段ボール箱の梱包から紙袋への置き換えが進んでいることや、商品を包む緩衝材についても、プラ材のエアキャップから紙素材の緩衝材へ切り替わるなど、脱プラや省力化の関心は引き続き高まっております。

当社もそのようなニーズに対応するため、紙の緩衝材を生産する機器の販売をおこなっております。

## 当社のサステナビリティへの取組

### 社会貢献活動

#### 東久留米市の子ども食堂ネットワークへ新米を寄付

- 地域社会への社会貢献活動の一貫として、当社地元の東久留米市の子ども食堂ネットワークへの支援を実施
- 今後も地域社会との連携を深めながら、継続的な支援をおこなっていく方針



左：東久留米市社会福祉協議会 土屋事務局長  
右：のむら産業株式会社 清川代表取締役社長

その他、当社はグループ全体のサステナビリティ経営の取り組みを推進しております。

その活動の一つとして、地元企業として地域社会への貢献をおこなっていきたくと考え、東久留米市社会福祉協議会様を通じて、市内の子ども食堂ネットワークへの支援をおこないました。

今後も地域社会との連携を深めながら、出来る限り継続的な支援をおこなってまいります。

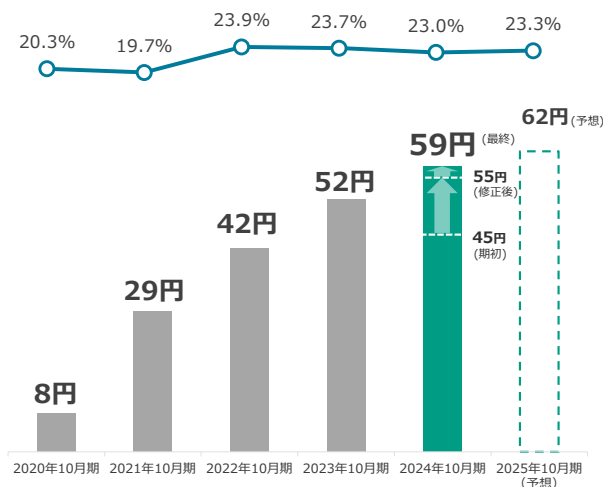
## V. 株主還元

続きまして、「株主還元」についてご説明いたします。

24/10期は、増額修正後からさらに**配当額を4円増額**  
前期比減配予想から**前期比7円増配**へ

## 基本方針

事業拡大に必要な内部留保との  
バランスを図りながら連結配当性  
向25%程度を目標としつつ、**継続  
的かつ安定的な配当を実施**



※2020年8月12日付で普通株式1株につき25株の割合で株式分割を行っており、1株当たりの年間配当金につきましては当該株式分割後の配当額を記載しております。

株主の方々への利益配分の重要性は認識しており、今後の成長投資に向けた、内部留保を確保するとともに、配当についても、連結の配当性向25%程度を目標としつつ、継続的かつ安定的な利益配分を実施していく方針です。

2024年10月期の年間配当金は、9月13日に発表いたしました配当予想の修正を増額し、1株につき59円とさせていただきます。

2025年10月期の年間配当金は、さらに増配をし、1株につき62円を予想しております。

。



## IRサイト リニューアル

<https://nomurasangyo.co.jp/ir/>

### ✓ コンテンツの拡充

「3分でわかるのむら産業」など投資家の皆様に当社をより理解していただけるように、コンテンツを拡充しました。

### ✓ タイムリーな情報提供

「投資家向けQ&A」、「配当の状況」など、情報をタイムリーに更新していきます。

株主、および投資家の皆様に当社をより理解していただけるように、IRサイトをリニューアルいたしました。

今後は、このIRサイトを通じて、投資家の皆様に対してタイムリーに情報発信をおこなってまいりたいと考えております。

以上、「事業概要」、「2024年10月期の決算概要」、「2025年10月期 業績予想」、「中期経営計画概要」、「株主還元」についてご説明申し上げます。

## VI. Appendix



会社名	のむら産業株式会社
設立	1965年（昭和40年）11月
会社所在地	東京都東久留米市前沢5丁目32番23号
代表者	代表取締役社長 清川 悦男
資本金	80,000,000円
決算期	10月
発行済株式数	1,391,575株（自社株含む）
従業員数	111名（平均臨時雇用人員含む） ※24/10/31時点（連結）
連結子会社	バックウェル株式会社 山葉印刷株式会社 BJT JAPAN合同会社
監査法人	EY新日本有限責任監査法人
事業内容	<包装資材部門> 米穀精米袋を中心とした食品及びその他の包装資材の企画・デザイン及び販売 <包装機械部門> 米穀用自動計量包装機を中心とした計量包装機械の企画開発及び製造販売

経営理念

人に優しい新技術をモットーに、  
 常に使う人の身になっての  
 商品づくりに努め、  
 お取引先の皆様とのビジネスを通じて  
 社会に貢献していきます。

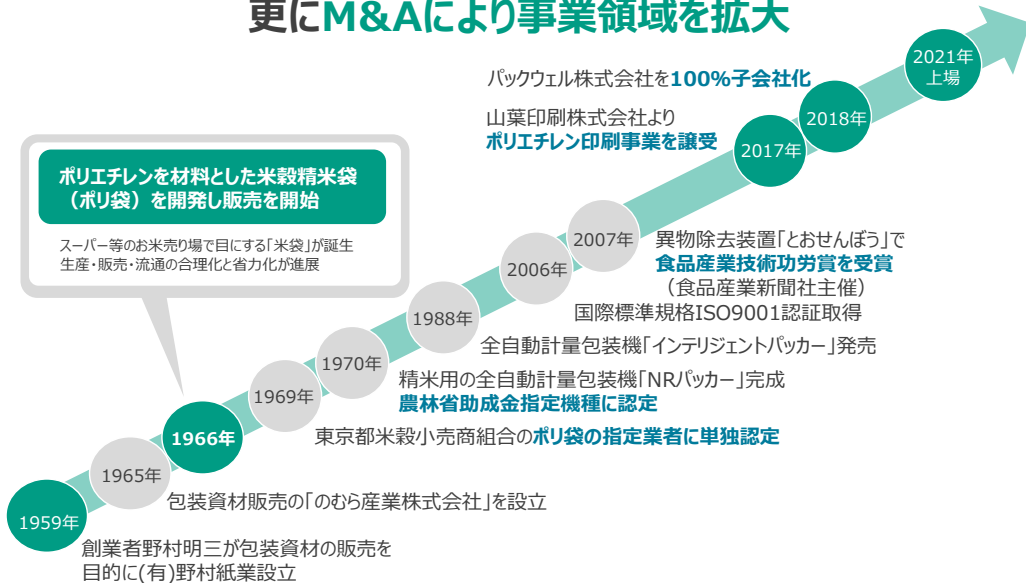


当社は、1965年、昭和40年に設立され、現在60年目を迎えております。  
 ニッチな業界ではありながら、「技術、商品、サービス」を磨き、  
 「お取引先の皆様」からの信頼を築き、成長を続けてまいりました。

従業員数は、約110名、連結子会社3社にてのむら産業グループを形成しております。  
 事業内容は、「米穀精米袋を中心とした包装資材」の企画デザイン・販売と、  
 「米穀用自動計量包装機を中心とした機械製品」の  
 企画開発・製造販売からなる「包装関連事業」と

「包む・埋める・封」をするといった、梱包における問題を解決するための  
 商品・サービスを提供する、「物流梱包事業」により事業を展開しております。

## 設立半世紀を超えた米穀包装資材・機械のパイオニア 更にM&Aにより事業領域を拡大



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

33

当社の沿革となります。

1959年に「野村明三」が包装資材の販売を目的に、「野村紙業」を立ち上げ、「創業」いたしました。

その後、1965年に「のむら産業株式会社」を設立し、翌年、新しく開発したポリエチレンを材料とした米穀精米袋の販売を開始いたしました。現在、スーパー等で当たり前のように目にする「米袋」は当社から生まれました。

1970年には、新しく開発した精米用の全自動計量包装機の販売を開始し、米袋と合わせ精米の生産・流通・販売の合理化に大きく寄与しました。

2017年に山葉印刷株式会社よりポリエチレン印刷事業を譲り受け、2018年にパックウェル株式会社を100%子会社化し、当社自身の「オーガニックな成長」とM&Aにより、米穀包装資材・機械のパイオニアとして企業規模を拡大してまいりました。

当社グループはBtoBを中心とした2つのセグメントで構成



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

34

続きまして事業概要をご説明いたします。

当社の事業セグメントは、大きく2つで構成されています。

ひとつは、売上高の86%を占める「包装関連事業」、

もうひとつは、売上高の14%を占める「物流梱包事業」です。

包装関連事業は、包装資材と包装機械を両輪としてビジネスを展開し、

物流梱包事業は、物流における、パッケージに関連する資材と機械を商材として展開しております。

## 米袋を中心とした食品及びその他の包装資材の企画・デザイン及び販売



包装関連事業の概要について、ご説明いたします。

包装資材については、米袋を中心とした食品、

およびその他の包装資材の企画・デザイン及び販売をおこなっております。

まず調査、マーケティングを行い、市場調査、データ分析により、

時事に合ったトレンドを発掘いたします。

続いてお客様の要望に合った最適のプランとデザインをご提供し、納品いたします。

## 米穀用自動計量包装機を中心とした計量包装機械の企画開発及び製造販売

	パーセル HP15D	インテリジェントパッカー ネオス DSR-110	スーパーインテリジェント パッカー SIP-110	ネクサス NX-180R
製品				
最大の特徴	<b>計量機と包装機が一体化</b>			
性能	±2gの計量精度と 5袋～6袋/分の能力	1基の計量機で 10袋/分（5kg時）の包装能力	計量機2連搭載	3基の計量機で高速化を実現
操作性	マイコン自動制御で高精度な計量 と計量回数機能搭載	サイドグリップ方式で 確実に袋を保持	各機構部をユニット化し清掃・調整・メンテナンスが容易	
その他	小スペースで設置可能な コンパクトサイズ	省エネ性能で、エアー消費量、 電力消費量を削減	バーコードの読み込みだけでフィルムサイズ、計量値、 シール設定、印字位置等を自動型替え可能	

包装機械についてです。

米穀用自動計量包装機を中心とした、

計量包装機械の企画開発及び製造販売をおこなっております。

顧客ニーズに適した様々な包装機械・オプションなども企画・開発

異物除去機		集積包装機	
			
糠玉取機（とおせんぼ）		フレキシブルミニサッカー MS-5000H1・H2	フレキシブルオートサッカー FAS-2010BP
給袋式自動計量包装機			チューブロール袋用包装機
			
NRP-6	ジャスティーン NKC-01A	ジャスティーン NKR-01A	PLN-400

顧客ニーズに適した様々な包装機械、オプションなども企画・開発をしております。

物流におけるパッケージ現場の問題解決策の提案や海外の優れた製品・資材を輸入・販売

包む

大切なモノを優しく包む

- エアー包装材システム
- 紙緩衝材システム
- 表面保護フィルム

埋める

大切なモノの間隙を埋める

- エアー緩衝材システム
- 紙緩衝材システム

封をする

大切なモノを運ぶため封をする

- 封かん・製函機
- ガムテープ繰出し機

ワレモノ専用包装材



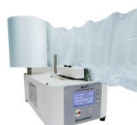
ワインボトルや薬品ボトル等、守りたい商品の形状にフィット

エアー包装材システム



フィルムに空気（エア）を注入して袋状の緩衝材を高速で製造するシステム

エアー緩衝材システム



簡単操作でフィルムを縦置きにすることで最小のスペースを実現（環境にも優しいバイオフィルム）

紙緩衝材システム



脱プラの風潮に適した緩衝性能の高い紙パッドタイプの緩衝材システム

封かん・製函機



段ボールケースの上下面をテープ貼りする自動封かん機



マニュアル梱包の現場におけるガムテープ封かん作業効率システム

物流梱包事業の概要についてご説明いたします。

物流におけるパッケージ現場の問題解決策の提案や

海外の優れた製品・資材を輸入販売しております。

物流における「包む」、「埋める」、「封をする」といった

3つの目的に沿った様々な製品を取り扱っております。

- 本資料は、のむら産業㈱の業績動向及び事業内容について、のむら産業㈱による現時点における予定、推定、見込又は予想に基づいた将来の展望についても言及しております。
- これらの将来の展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。様々な要因により、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- のむら産業㈱の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来の展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、本資料開示時点において利用可能な情報に基づいてのむら産業㈱によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】  
のむら産業株式会社 管理部  
Web : <https://www.nomurasangyo.co.jp/ir/>